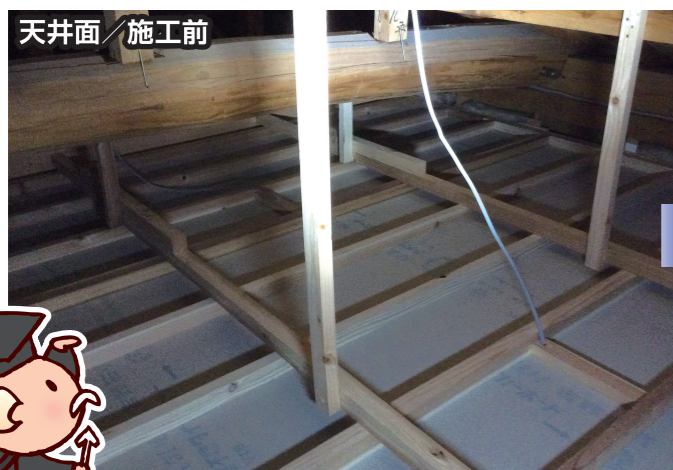


外気を遮断すれば、断熱効果がアップ

アクアフォームは現場の形状に合わせて施工するので、確実な断熱リフォームが可能です。



天井面/施工前

アクアフォーム施工後

天井面の温度上昇を軽減!!



床下/施工前

アクアフォーム施工後

床下からの冷え込みを軽減!!

施工後の高い断熱性と吸音性

断熱性

アクアフォームは無数の細かい連続気泡の中に多量の空気を含んでいるため、他の断熱材と比較して優れた断熱性能を発揮します。

項目	断熱材品種	熱伝導率 w/mk	住宅金融支援機構、工事仕様書断熱区分	相当断熱厚み割合
アクアフォーム	建築物断熱用吹付硬質ウレタンフォームA種3	0.034	D	100
A種押出式ポリスチレンフォーム保温材	1種a,b	0.04	C	120
繊維系断熱材(グラスウール)	10K	0.050	A-2	147
	16K	0.045	B	132
	24K	0.038	C	112

※熱伝導率とは熱の伝わりやすさを表すもので、数値が小さいほど断熱性に優れています。
 ※(独)住宅金融支援機構監修の工事仕様書の断熱区分は、A~Fの6段階でFに近くなるほど断熱性に優れています。
 ※(独)住宅金融支援機構の断熱材品種は区分Cですが、性能値によりD区分となります。
 ※相当断熱厚み割合とはアクアフォームを100とした場合に同等の断熱性を確保するために必要な厚みを表します。

吸音性

柔軟性に富んだアクアフォームは「微細連続気泡構造」で一般的な独立気泡構造断熱材と比較して、吸音性に優れています。



水で発泡する断熱材 アクアフォーム

イソシアネートと水を含むポリオールを混合することで発生する炭酸ガスを発泡材として利用する「アクアフォーム」。オゾン層破壊や地球温暖化の原因となるフロンを全く使用しない、地球にやさしいウレタンフォーム素材として開発されました。

高気密・高断熱

複雑な構造の住宅も、現場吹付け発泡だから隙間なく施工できます。また、自己接着力によって躯体との間に隙間ができにくく、長期間にわたって優れた気密・断熱性を維持します。高い断熱性・気密性をもつ住宅は省エネルギー効果が高く、建物の暖冷房に要する光熱費を削減します。



省エネルギー

隙間から漏れる空気を漏気といいます。建物に隙間が多いと、風や湿気が外から建物の中に入ってきます。建物を効率的に換気するには、まず高い気密性を持った住宅を造る必要があります。高い気密性があるのははじめて、効率的に、計画的に建物を換気することが可能なのです。24時間換気システムとの組み合わせで、アクアフォームは健康的な空気環境を造りだします。さらに効率よく換気が可能になれば必要以上の電力を使うこともなくなり、省エネにつながります。



優れた吸音性

アクアフォームの細かな連続気泡構造は吸音性にも優れています。高い気密性により外部の騒音や内側からの生活音の漏れを軽減するとともに、アクアフォームの細かな気泡構造が音をスポンジ状のフォーム内に拡散します。外からの騒音の侵入や、生活音の漏れを気にすることなく快適に暮らすことが可能です。



耐久性

グラスウール等の繊維系断熱材は湿気を通しやすく、湿気を吸着しやすい断熱材です。隙間の多い家は冬には家の中の湿気が壁の中に侵入し、夏には外気の湿気や日射しにより高温になった構造材から放出される湿気が壁の中に侵入し、結露を引き起こします。アクアフォームはその高い気密性と低い吸湿性により、住まいの大敵である躯体内の結露を防止して、構造材の劣化を防ぎ、建物の耐久性を高めます。また、壁の中でアレルギーの原因となるカビやダニが発生するのを防ぎ、長期間にわたって建物を健康な状態に維持します。



もっと知りたいアクアフォーム

大切な我が家に長く住むために。

ポイント

住まいの性能を上げることで付加価値が生まれます

アクアフォームで断熱施工を行なうと省エネ住宅として建物自体の性能が上がり、付加価値が生まれます。今後、売却時に省エネ性能表示が義務化され、融資の条件となることも考えられます。



ご注意

※住まいの条件により施工不可能な場合があります。
 ※季節等の条件により施工が大変込み合う場合があります。あらかじめご了承ください。